



平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年5月13日

上場会社名 大塚ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4578 URL <http://www.otsuka.com/jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 達夫
 問合せ先責任者 (役職名) IR部長 (氏名) 小暮 雄二 TEL 03-6361-7411
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家、証券アナリスト、報道関係者向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第1四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	385,079	—	51,586	—	51,474	—	33,960	—
26年12月期第1四半期	386,344	19.4	65,565	29.7	69,482	22.3	45,246	14.0

(注) 包括利益 27年12月期第1四半期 29,446百万円 (-%) 26年12月期第1四半期 37,799百万円 (△33.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	62.67	62.66
26年12月期第1四半期	83.53	83.02

(注) 当社は、平成26年12月期に決算日を3月31日から12月31日に変更しており、平成27年12月期第1四半期は比較対象期間が異なることから対前年同四半期増減率については記載しておりません。(平成26年12月期第1四半期は4月1日から6月30日となっております。)

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期第1四半期	2,392,230	1,667,484	68.4	3,018.30
26年12月期	2,178,184	1,658,600	74.7	3,004.38

(参考) 自己資本 27年12月期第1四半期 1,635,412百万円 26年12月期 1,627,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	-	35.00	-	40.00	75.00
27年12月期	-	-	-	-	-
27年12月期(予想)	-	50.00	-	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年12月期の連結業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	710,000	—	55,000	—	60,000	—	40,000	—	73.82
通期	1,370,000	—	110,000	—	120,000	—	80,000	—	147.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、平成26年12月期に決算日を3月31日から12月31日に変更しており、平成27年12月期は比較対象期間が異なることから対前期及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期1Q	557,835,617株	26年12月期	557,835,617株
② 期末自己株式数	27年12月期1Q	16,004,375株	26年12月期	16,037,940株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期1Q	541,815,585株	26年12月期1Q	541,643,292株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了し、平成27年5月8日付で四半期レビュー報告書を受領しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.8「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算短信補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について）

当社は、平成27年5月13日（水）に機関投資家、証券アナリスト、報道関係者向けにカンファレンス・コールを開催する予定です。その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する四半期決算短信資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	8
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	8
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	8
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	11
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	12
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13
(企業結合等関係)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2014年6月27日開催の第6期定時株主総会において、定款一部変更を決議し、第7期より連結決算日を毎年3月31日から12月31日に変更いたしました。

この結果、「3. 四半期連結財務諸表 (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書」に記載の前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書は、2014年4月1日から2014年6月30日までの期間を、当第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書は、2015年1月1日から2015年3月31日までの期間を対象として記載しております。

このため、前年比較にあたっては、すべての連結対象会社の2014年1月1日から2014年3月31日までの損益を連結した前年同一期間数値を参考値として算出し、当該数値との比較で記載しています。

<当四半期連結累計期間における業績の概要>

当第1四半期連結累計期間における売上高は385,079百万円（前年同一期間347,545百万円、前年同一期間比10.8%増）となり、営業利益は51,586百万円（前年同一期間17,302百万円、前年同一期間比198.1%増）、経常利益は51,474百万円（前年同一期間18,478百万円、前年同一期間比178.6%増）、四半期純利益は33,960百万円（前年同一期間11,984百万円、前年同一期間比183.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

（当第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	医療関連事業	ニュートラシューティカルズ関連事業	消費者関連事業	その他の事業	調整額	連結
売上高	288,660	63,598	9,158	34,082	△10,420	385,079
営業利益又は営業損失(△)	60,619	439	△653	1,284	△10,103	51,586

（参考-前年同一期間）

（単位：百万円）

	医療関連事業	ニュートラシューティカルズ関連事業	消費者関連事業	その他の事業	調整額	連結
売上高	258,294	57,042	9,603	32,396	△9,791	347,545
営業利益又は営業損失(△)	29,596	△1,225	△376	1,267	△11,958	17,302

① 医療関連事業

中枢神経領域では、抗精神病薬「エビリファイ」は、グローバルで引き続き堅調に業績を拡大し、前年同一期間比5%強の伸長となりました。米国では大うつ病補助療法や双極性障害の販促活動を強化、新規処方数が増加したことと為替の影響により、売上は前年同一期間比で15%以上伸長しました。欧州では、2014年11月からジェネリック発売の影響を受け、売上は前年同一期間比で減少しました。アジアでは、大うつ病補助療法や韓国での小児（トゥレット障害）領域での処方拡大により売上は伸長しました。日本では、2014年の消費税増税前の一時的な需要増加の影響により、売上は前年同一期間比で下回りましたが、統合失調症、双極性障害躁症状やうつ病・うつ状態と3つの適応症でOD錠（口腔内崩壊錠）の処方は拡大しています。

H. ルンドベックA/Sとの5つの化合物*1でのグローバルアライアンスの1つであるアリピプラゾール持続性注射剤（月1回製剤）「Abilify Maintena」は、米国では、統合失調症急性期のデータの有用性を訴求し、2015年3月より新剤形のプレフィルドタイプの注射液剤を発売して、売上が順調に拡大しています。2015年3月末時点で欧州での販売国が19カ国となり、また、2014年5月にカナダ、オーストラリアでも2015年3月から販売を開始し、販売エリアは世界で順調に広がっています。

日本でユーシービージャパン(株)と共同販促を行っている抗てんかん剤「イーケブラ」は、有用性に対する高い評価、小児への処方拡大ならびに2015年2月にてんかん部分発作単剤療法の承認を得たことにより、抗てんかん剤国内市場でトップブランド*2を維持し、更にシェアも拡大しています。世界唯一の経皮吸収型ドパミンアゴニスト剤「ニュープロパッチ」は、パーキンソン病とレストレスレッグス症候群の適応症でパッチ剤使用の理解が広がり、特にパーキンソン病でウェアリングオフ*3の改善効果で評価が高まり、売上は大きく伸長しました。

2015年1月13日に買収を完了した米国アバニア社の世界初で唯一の情動調節障害の治療薬「NUEDEXTA」は、米国における販売体制を強化し売上を拡大しています。

がん・がんサポーター領域では、抗悪性腫瘍剤「ティーエスワン」は、国内では大腸がん、頭頸部がん、膵がんでのEBM(Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療)を活用した情報提供活動を継続しましたが、薬価の引き下げなどの影響により減収となりました。一方、海外では売上が対前年同一期間比で増加したことからグローバルの売上は微増となりました。抗悪性腫瘍剤「ユエフティ」は薬価の引き下げなどの影響、還元型葉酸製剤「ユーゼル」は、2014年の消費税増税前の一時的な需要増加などの影響により減収となりました。長時間作用型5-HT3受容体拮抗型制吐剤「アロキシ」の売上は堅調に推移し、抗悪性腫瘍剤「アブラキサン」は、2014年12月の膵がん効能追加による処方拡大により、前年同一期間比で売上を大幅に拡大しました。新規抗悪性腫瘍剤「ロンサーフ」は、2014年5月に発売し、治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸がんにおける処方が拡大し、売上が順調に拡大しています。

血液がん治療において、BMS社*4と日米欧で共同事業を進めている抗悪性腫瘍剤「スプリセル」は、グローバルで慢性骨髄性白血病のファーストライン治療薬として堅調に業績を拡大しています。また、米国FDAから唯一造血幹細胞移植前治療薬として承認を受けた「ブスルフェクス」は、当社及びパートナー会社を通じて世界50カ国以上で販売しており、全身放射線照射に取って代わる骨髄移植前の処置薬として標準薬剤治療法を確立し、世界でその評価が高まり業績は大幅に伸長しています。

循環器領域では、自社創薬品であるバソプレシンV2受容体拮抗剤「サムスカ」は、2015年3月末時点で販売国が世界20カ国・地域に拡大し、経口の利尿薬としての新しい価値や低用量の新しい使用方法が医療現場で浸透し、グローバルの売上は前年同一期間比で大幅に伸長しました。今まで治療薬がなかった腎臓の難病である常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)の治療薬として、2014年3月に世界で初めて日本で承認を取得し、順調に処方は推移しています。抗血小板剤「プレタール」は、日本では病院でのジェネリック推奨と薬価改定の影響を受けて売上は減収となりました。

消化器領域では、武田薬品工業と共同プロモーションを行う「タケキャブ®錠」は、2015年2月に発売し、多くの口座を獲得しています。胃炎・胃潰瘍治療剤「ムコスタ」は、日本では病院でのジェネリック推奨と薬価改定の影響を受け減収となりました。

その他の領域では、ドライアイ治療剤の「ムコスタ点眼液UD2%」は順調に処方が拡大し、売上は伸長しました。

臨床栄養分野では、高カロリー輸液「エルネオパ」が、薬価引き下げの影響下にありながら、慢性期医療に着目した積極的なプロモーション活動により順調に売上を伸ばし、前年同一期間比で売上は微増となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の医療関連事業の売上高は288,660百万円(前年同一期間比11.8%増)、営業利益は60,619百万円(同104.8%増)となりました。

*1: 「Abilify Maintena」、ブレクスピプラゾール、Lu AE58054の3化合物とH. ルンドベックA/Sが現在研究開発を進めている新規化合物から2化合物

*2: ©2015IMSHealth JPM2015年3月をもとに作成 無断転載禁止

*3: ドパミンを補充する薬により症状がよくなったり悪くなったりを1日何度も繰り返してしまう現象。パーキンソン病患者さんの日常生活に障害をきたす最も深刻な問題の1つ。

*4: ブリストル・マイヤーズ スクイブ・カンパニー

② ニュートラシューティカルズ関連事業

水分・電解質補給飲料「ポカリスエット」は、日本国内では、冬場のプロモーション展開が奏功し、スポーツ飲料市場が低迷している*5中、販売数量は前年同一期間を上回りました。また、大塚製薬、大塚ウエルネスベディンクとアサヒ飲料の3社は、自動販売機における主力製品の相互販売に関する業務提携を締結し、アサヒ飲料の保有する自動販売機で2015年3月後半より「ポカリスエット」の販売を開始しました。一方17カ国・地域で展開している海外では、継続した消費者育成と製品価値訴求が進み、特に中国において各チャネルの特徴を活かした販促、営業活動が奏功したことにより販売数量は前年同一期間を上回りましたが、インドネシアにおいて競合品等の影響による販売数量前年比減により、海外の販売数量は前年同一期間を下回りました。

2015年2月開催のアジア最大級のシティマラソン『東京マラソン2015』で、大塚グループは、単独企業グループとして初めて「水分補給」から「栄養補給」までをサポートし、スタート前にBCAA（アミノバリュー）、レース中に水分とイオン（ポカリスエット）、フィニッシュ後に5大栄養素（カロリーメイト）を世界から集まった約36,000人のランナーに提供致しました。

炭酸栄養ドリンク「オロナミンC」は、消費税増税による10本パックの販売数量の減少、加えて2014年の消費税増税前の一時的な需要増加による影響で販売数量は前年同一期間を下回りましたが、2015年3月中旬には、ローヤルゼリー、プロポリス、ハチミツやビタミンB1が入った「オロナミンC ROYALPOLIS」をリニューアルし、口座獲得が順調に進んでいます。また、2015年2月より、栄養ドリンク市場が成長している韓国に新たな製造拠点を設けて販売を開始し、オロナミンCの販売国は8カ国*6となりました。

バランス栄養食「カロリーメイト」は、製品コンセプトの再浸透により消費者の製品理解を高める取り組みを継続し、また、受験シーズンのコミュニケーションを強化した結果、2014年の消費税増税前の一時的な需要増加がありながら、販売数量は前年同一期間比で微減に留まりました。

当社グループは、大豆（Soy）が地球上の健康問題、環境問題などの解決（solution）になるとの考え「Soylution」で大豆関連事業を世界11カ国・地域で展開しています。日本では、2014年4月に発売した「ソイジョイ アーモンド&チョコレート」が、デスクワーカーなどのユーザー拡大につながり、「ソイジョイ」の販売数量は前年同一期間比で二桁増となりました。また、2015年3月に「ソイジョイ ストロベリー」と「ソイジョイ ブルーベリー」を全面リニューアルし、大豆の量はそのままに、それぞれストロベリー・ブルーベリーの果実量を増量し販売を開始しました。

女性の健康を考えた、手軽に毎日摂取できるエクオール含有食品「エクエル」は、2014年4月発売以降、更年期の女性の心や身体の変化とエクオールの関係に注目した情報提供等や宣伝広報活動により、消費者の理解が進み、順調に売上は推移しています。

米国薬剤師が推奨し、2007年から8年連続米国店頭販売No. 1サプリメント*7である米国ファーマバイト LLCの「ネイチャーメイド」は、米国市場が回復傾向*8にある中、売上も上昇しました。また、2014年12月に買収した米国フードステート Inc.の植物由来サプリメント製品「メガフード」、「イネート」についても順調に推移しています。

欧州を中心に40カ国以上に事業展開しているニュートリション エ サンテ SASは、栄養・健康食品ブランド「Gerble（ジェルブレ）」の砂糖不使用製品やグルテンフリー製品が成長を牽引、有機食品や大豆製品も順調に成長しました。

「肌の健康」をテーマにした健粧品（コスメディクス）事業において、男性スキンケアブランド「UL・OS（ウル・オス）」は、韓国では、ブランド育成が順調に進み採用店舗数が拡大することにより、前年同一期間比で売上が伸長しました。日本では2015年3月に、「ウル・オス 薬用リフレッシュシート」をリニューアルし、身体・顔の各部位に応じ、仕様や機能性を考えた2つのふき取りシート、「ウル・オス 大人のボディシート」「ウル・オス 大人のフェイスシート」を新発売し、現在全8種類16品目のラインアップとなりました。健康で美しい肌を求める女性向け「インナーシグナル」は、新規顧客の増加と高いリピート率から引き続き順調にロイヤルユーザーを増やし、売上は前年同一期間比で拡大しています。

滋養強壮剤「チオビタ」は、滋養強壮剤市場全体の縮小や、競合品の影響等の理由により前年同一期間の販売数量を下回りました。

経口補水液「OS-1」は、冬場の感染症等による下痢・嘔吐及び発熱に伴う脱水状態への対策として訴求活動が奏功し、販売数量は前年同一期間比で大きく増加しました。

「オロナインH軟膏」は、国内においては2014年の消費税増税前の一時的な需要増加の影響を受け対前年同一期間比で売上が減少しましたが、香港ではプロモーション活動が奏功し対前年同一期間比で売上が伸長しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のニュートラシューティカルズ関連事業の売上高は63,598百万円（前年同一期間比11.5%増）、営業利益は439百万円（前年同一期間は営業損失1,225百万円）となりました。

- *5 : 飲料総研データ1-3月 -7%
- *6 : UAE、クウェート、バーレーン、オマーン、サウジアラビア、カタール、韓国、日本
- *7 : Pharmavite calculation based in part on data reported by Nielsen through its Scantrack® service for the Dietary Supplements category in dollar and unit sales, for the 52-week period ending 12/29/2007 and 12/28/2008 in US Food Drug Mass channels; and for the 52-week periods ending 12/26/2009, 12/25/2010, 12/24/2011, 1/5/2013, 1/4/2014, and 1/3/2015 in US xAOC channels. ©2015 The Nielsen Company
- *8 : Nielsen xAOC through 01/31/15 +5.3% for the last 4 periods) .

③ 消費者関連事業

ビタミン炭酸飲料「マッチ」は、高校生をコアターゲットとした積極的なマーケティング戦略、営業活動等を継続するとともに、1.5Lペットボトルの発売や「マッチピンク」などのブランド力を強化し、新規ユーザー層の拡大に伴うブランドの再認知・活性化に取り組みましたが、2014年の消費税増税前の一時的な需要増加の影響を受け、販売数量は前年同一期間比で微減となりました。「クリスタルガイザー」を中心とするミネラルウォーターは、マーケティング活動を強化しブランド価値向上に努めましたが、消費税増税前の一時的な需要増加や、競合品などの影響により販売数量は前年同一期間比で減少となりました。「ボンカレー」は、「ボンカレーゴールド」の2013年からの箱ごとレンジへの対応や冬季限定商品の発売、ボンカレー史上最高品質の「The ボンカレー」の発売などによりマーケティング戦略や営業・販売促進活動を強化し、ブランド価値向上に努めた結果、販売数量は前年同一期間比で大きく拡大しました。

当事業においては、収益構造を早期に改善すべく、マーケティング戦略、販売促進活動等を見直し、経費効率を高める改革を継続しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の消費者関連事業の売上高は9,158百万円（前年同一期間比4.6%減）、営業損失は653百万円（前年同一期間は営業損失376百万円）となりました。

④ その他の事業

機能化学品分野では、モバイル端末に使用されるノンハロゲン難燃剤及び液晶バックライト向け紫外線吸収剤の売上が前年同一期間比で減収となりましたが、液晶ディスプレイ等の顔料分散剤として利用される「TERPLUS」は新規顧客の獲得や既存顧客への販売増により、売上が対前年同一期間比で堅調に推移しました。機能化学品分野全体としては前年同一期間並に推移しました。

ファインケミカル分野では、医薬中間体「DACTA」が競合品との販売競争激化の影響を受けて、売上は前年同一期間比で減収となりました。

運輸・倉庫分野では、『共通プラットフォーム（共同物流）』事業の推進に伴う外部顧客の拡大により取扱数量が増加し、売上は前年同一期間比で増収となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のその他の事業の売上高は34,082百万円（前年同一期間比5.2%増）、営業利益は1,284百万円（同1.4%増）となりました。

<当四半期連結累計期間における研究開発活動の内容及び成果>

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は44,700百万円です。

主な研究開発分野及び新製品の開発のセグメント別の状況は次のとおりです。

(医療関連事業)

① 治療薬分野

当社グループは、医療上の未充足領域を重点領域として捉え、中枢神経領域、がん・がんサポーターティブ領域を重点領域、その他循環器領域・眼科領域においても未充足疾患に焦点を当てた研究開発を進めています。

当第1四半期連結累計期間の治療薬分野における研究開発の主な進捗状況は以下のとおりです。

領域	「製品名」 (一般名) または開発コード	状況
中枢神経領域	「エビリファイ持続性 水懸筋注用」 (アリピプラゾール)	<日本> ・統合失調症の適応症で2015年3月に承認を取得しました。
	「イーケプラ」 (レベチラセタム)	<日本> ・てんかん部分発作の単剤療法の効能効果一部変更承認を2015年2月に取得しました。 ・てんかん全般発作の適応症で2015年3月に承認申請しました。
	(ナルメフェン) Lu AA36143	<日本> ・アルコール依存症における飲酒量低減のフェーズⅢ試験を2015年2月に開始しました。
	(デキストロメトルフ アン・キニジン) AVP-923	アバニア社を2015年1月に買収し、獲得した開発品であり、現在の開発状況は以下のとおりです。 <米国> ・アルツハイマー型認知症に伴うアジテーションを対象としたフェーズⅡ試験を実施中。 ・パーキンソン病に伴うジスキネジアを対象としたフェーズⅡ試験を実施中。
	(重水素化デキストロ メトルファン・キニジ ン) AVP-786	アバニア社を2015年1月に買収し、獲得した開発品であり、現在の開発状況は以下のとおりです。 <米国> ・大うつ病を対象としたフェーズⅡ試験を実施中。
	(スマトリプタン) AVP-825	アバニア社を2015年1月に買収し、獲得した開発品であり、現在の開発状況は以下のとおりです。 <米国> ・急性片頭痛の適応症でFDAに申請中。
がん・がんサポ ーターティブ領域	「ロンサーフ」 TAS-102	<米国> ・結腸/直腸がんの適応症で2015年2月に承認申請が受理されました。 <欧州> ・結腸/直腸がんの適応症で2015年2月に承認申請しました。 <日本> ・結腸/直腸がんの効能効果一部変更承認を2015年3月に取得しました。
	(guadecitabine) SGI-110	<米国・欧州> ・急性骨髄性白血病のフェーズⅢ試験を2015年3月に開始しました。 <日本> ・急性骨髄性白血病のフェーズⅠ試験を2015年1月に開始しました。

領域	「製品名」 (一般名) または開発コード	状況
がん・がんサポ ーティブ領域	TAS-117	<日本> ・固形がんのフェーズⅠ試験を2015年2月に開始しました。
	TAS-118	<日本> ・胃がんのフェーズⅢ試験を2015年1月に開始しました。
	(トラベクテジン) ET-743	<日本> ・悪性軟部腫瘍の適応症で2015年1月に承認申請しました。
循環器領域	「サムスカ」 (トルバプタン)	<欧州> ・欧州医薬品庁(EMA)からADPKD(常染色体優性多発性のう胞腎)の承認勧告を2015年2月に受領しました。

② 診断薬分野

慢性骨髄性白血病の治療効果モニタリングマーカーとして『Major BCR-ABL mRNA測定キット「オーツカ」』は、日本で2014年11月に発売し、2015年4月より保険適応となりました。

医療関連事業における研究開発費は42,279百万円です。

(ニュートラシューティカルズ関連事業)

当事業においては、医療関連事業で培ったノウハウを活かし、日々の健康の維持・増進をサポートする機能性食品・飲料を中心に世界に通用する製品の研究開発に取り組んでいます。

大津スキンケア研究所では、2015年3月に「ウル・オス 薬用リフレッシュシート」をリニューアルし、身体・顔の各部位に応じた2つのふき取りシート、「ウル・オス 大人のボディシート」「ウル・オス 大人のフェイスシート」を新発売し、現在全8種類16品目のラインアップとなりました。

ニュートラシューティカルズ関連事業における研究開発費は、1,272百万円です。

(消費者関連事業)

当事業においては、生活に身近な食品や飲料の分野でオリジナルかつユニークな製品の研究開発に取り組んでいます。

消費者関連事業における研究開発費は、101百万円です。

(その他の事業)

当事業においては、機能化学品やファインケミカルの分野で研究開発に取り組んでいます。

その他の事業における研究開発費は、1,047百万円です。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

当第1四半期連結会計期間末における総資産は2,392,230百万円（前連結会計年度末は2,178,184百万円）となり、214,045百万円増加しました。その内訳は、流動資産が166,929百万円の減少、固定資産が380,976百万円の増加、繰延資産が1百万円の減少であります。

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,078,673百万円（前連結会計年度末は1,245,602百万円）となり、166,929百万円減少しました。その主たる内訳は、現金及び預金が140,433百万円の減少、受取手形及び売掛金が64,266百万円の減少、有価証券が43,165百万円の増加、たな卸資産が5,919百万円の増加、その他流動資産が11,321百万円の減少となっております。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は1,313,498百万円（前連結会計年度末は932,522百万円）となり、380,976百万円増加しました。その主たる内訳は、アバニア ファーマシューティカルズ Inc. の連結子会社化等により無形固定資産が384,648百万円の増加、投資有価証券が6,019百万円の減少、退職給付に係る資産が3,185百万円の増加となっております。

② 負債の部

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は490,385百万円（前連結会計年度末は437,026百万円）となり、53,358百万円増加しました。その主たる内訳は、支払手形及び買掛金が22,318百万円の減少、賞与引当金が7,837百万円の増加、短期借入金が94,940百万円の増加、その他流動負債が25,582百万円の減少となっております。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は234,360百万円（前連結会計年度末は82,557百万円）となり、151,803百万円増加しました。その主たる内訳は、アバニア ファーマシューティカルズ Inc. の買収資金の調達等により長期借入金が150,159百万円の増加となっております。

③ 純資産の部

当第1四半期連結会計期間末における純資産の部は1,667,484百万円（前連結会計年度末は1,658,600百万円）となり、8,884百万円増加しました。その主たる内訳は、配当金の支払21,671百万円、四半期純利益33,960百万円の計上等により株主資本が11,829百万円増加したこと、その他有価証券評価差額金が5,726百万円増加したこと及び為替換算調整勘定が9,515百万円減少した結果、その他の包括利益累計額が4,218百万円減少（純資産のマイナス）したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2015年2月13日の決算短信で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結累計期間において、アバニア ファーマシューティカルズ Inc. の株式を新たに取得したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	523,135	382,701
受取手形及び売掛金	406,431	342,165
有価証券	48,535	91,701
商品及び製品	80,011	85,582
仕掛品	31,783	32,281
原材料及び貯蔵品	41,915	41,765
その他	114,330	103,009
貸倒引当金	△541	△534
流動資産合計	1,245,602	1,078,673
固定資産		
有形固定資産	344,784	345,641
無形固定資産		
のれん	93,162	475,726
その他	128,010	130,094
無形固定資産合計	221,173	605,821
投資その他の資産		
投資有価証券	270,804	264,784
出資金	42,538	43,510
退職給付に係る資産	17,486	20,672
その他	36,574	33,907
投資損失引当金	△78	△77
貸倒引当金	△759	△761
投資その他の資産合計	366,565	362,036
固定資産合計	932,522	1,313,498
繰延資産	59	57
資産合計	2,178,184	2,392,230
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	130,784	108,465
短期借入金	70,178	165,119
未払法人税等	14,498	13,489
賞与引当金	8,563	16,400
その他の引当金	613	103
その他	212,389	186,806
流動負債合計	437,026	490,385
固定負債		
長期借入金	22,251	172,410
その他の引当金	2,787	2,333
退職給付に係る負債	10,921	10,716
負ののれん	19,691	19,075
その他	26,904	29,824
固定負債合計	82,557	234,360
負債合計	519,584	724,745

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	81,690	81,690
資本剰余金	512,747	512,718
利益剰余金	990,906	1,002,665
自己株式	△47,415	△47,316
株主資本合計	1,537,928	1,549,757
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,152	18,878
繰延ヘッジ損益	392	25
為替換算調整勘定	57,161	47,645
退職給付に係る調整累計額	19,167	19,105
その他の包括利益累計額合計	89,873	85,655
少数株主持分	30,798	32,072
純資産合計	1,658,600	1,667,484
負債純資産合計	2,178,184	2,392,230

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	386,344	385,079
売上原価	113,064	109,566
売上総利益	273,279	275,512
販売費及び一般管理費		
販売促進費	56,482	73,002
給料及び賞与	26,905	25,291
賞与引当金繰入額	4,737	10,941
退職給付費用	521	733
のれん償却額	1,219	6,367
研究開発費	50,149	44,700
その他	67,698	62,889
販売費及び一般管理費合計	207,714	223,926
営業利益	65,565	51,586
営業外収益		
受取利息	318	369
受取配当金	525	444
負ののれん償却額	616	642
持分法による投資利益	3,898	1,024
その他	618	509
営業外収益合計	5,976	2,991
営業外費用		
支払利息	457	957
為替差損	1,354	1,893
その他	246	251
営業外費用合計	2,058	3,102
経常利益	69,482	51,474
特別利益		
固定資産売却益	22	13
持分変動利益	104	-
補助金収入	-	6
その他	-	3
特別利益合計	127	23
特別損失		
固定資産除却損	22	101
減損損失	8	6
子会社株式売却損	-	553
その他	5	243
特別損失合計	37	905
税金等調整前四半期純利益	69,572	50,592
法人税、住民税及び事業税	9,427	14,213
法人税等調整額	14,604	2,357
法人税等合計	24,031	16,571
少数株主損益調整前四半期純利益	45,541	34,021
少数株主利益	294	61
四半期純利益	45,246	33,960

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	45,541	34,021
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△291	5,844
繰延ヘッジ損益	1	△366
為替換算調整勘定	△4,635	△5,269
退職給付に係る調整額	△1,136	△219
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,680	△4,563
その他の包括利益合計	△7,741	△4,574
四半期包括利益	37,799	29,446
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,681	29,488
少数株主に係る四半期包括利益	117	△41

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療関連 事業	ニュートラ シューティ カルズ関連 事業	消費者 関連事業	その他の 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	275,403	75,267	11,847	23,826	386,344	-	386,344
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	1,789	36	10,133	11,958	△11,958	-
計	275,403	77,056	11,884	33,959	398,303	△11,958	386,344
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	65,678	8,453	109	1,967	76,208	△10,643	65,565

(注) 1. セグメント利益の調整額△10,643百万円には、セグメント間取引消去27百万円、各セグメントに配分していない全社費用△10,670百万円が含まれております。全社費用は、本社等の間接部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療関連 事業	ニュートラ シューティ カルズ関連 事業	消費者 関連事業	その他の 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	288,660	61,658	9,047	25,712	385,079	—	385,079
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,939	110	8,370	10,420	△10,420	—
計	288,660	63,598	9,158	34,082	395,499	△10,420	385,079
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	60,619	439	△653	1,284	61,689	△10,103	51,586

(注) 1. セグメント利益の調整額△10,103百万円には、セグメント間取引消去152百万円、各セグメントに配分していない全社費用△10,255百万円が含まれております。全社費用は、本社等の間接部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は、以下のとおりであります。

「医療関連事業」において、当第1四半期連結累計期間にアバニア ファーマシューティカルズ Inc. の株式の取得により、セグメント資産が421,839百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「医療関連事業」セグメントにおいて、「企業結合等関係」に記載のとおり、アバニア ファーマシューティカルズ Inc. の株式の取得により、当第1四半期連結会計期間より、アバニア ファーマシューティカルズ Inc. を連結の範囲に含めております。これに伴うのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において387,932百万円であります。なお、のれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 アバニア ファーマシューティカルズ Inc.

事業の内容 医薬品の研究開発、製造及び販売

(2) 企業結合を行った主な理由

アバニア ファーマシューティカルズ Inc. (以下、「アバニア社」) は、1988年に南カリフォルニアに設立された、従業員数約500名のバイオベンチャー企業です。同社は中枢神経疾患領域に集中しており、世界初で唯一の情動調節障害 (PBA: Pseudobulbar affect) 治療薬である「ニューデクスタ (NUEDEXTA®、臭化水素酸デキストロメトルフアン/硫酸キニジン) 20 mg/10 mgカプセル」を開発し2011年2月に米国で発売しました。アバニア社は「ニューデクスタ」の売上の成長を加速するために新たに150名のMRを採用し300名以上の営業体制にしています。また同社は、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、片頭痛やその他の中枢神経系の分野の開発を行っています。アルツハイマー型認知症に伴う行動障害*の適応をターゲットとし、大型化が期待される新規開発化合物AVP-786の開発に取り組んでおり、現在そのフェーズⅢ臨床試験の準備を進めています。

*アルツハイマー型認知症に伴うアジテーション

本買収により、①神経疾患の情動調節障害 (PBA) という未開拓な市場の中で創造した治療薬「ニューデクスタ」、②アルツハイマー型認知症に伴う行動障害の治療を目的とした後期開発品「AVP-786」、③大塚製薬が強みとする「精神疾患領域」に対し、アバニア社の持つ「神経疾患領域」の臨床開発力及び市場開拓力、の3つの新たな価値が大塚製薬に加わります。これにより、大塚製薬の神経疾患領域の拡大戦略が加速顕在化され、精神疾患領域だけでなく、神経疾患領域も含む中枢領域全体に広がります。その結果、短期だけでなく中長期のより力強い成長が期待できます。

本買収は、経営理念・人材・製品/技術が大塚グループと共有でき、かつ価値を創造できる長期的視野に立った投資を行うという、大塚グループの投資の基本方針に則り、実証と創造の理念に基づいています。

(3) 企業結合日

2015年1月13日 (米国東部時間)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とした株式取得

(5) 結合後企業の名称

アバニア ファーマシューティカルズ Inc.

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の買収目的子会社 (ビガラード コーポレーション) が、現金を対価として株式取得したためです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2015年1月13日から2015年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価：現金 3,507百万USドル

取得に直接要した費用：20百万USドル

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

387,932百万円

なお、のれん金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(2) 発生原因

取得原価が取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

20年間にわたる均等償却